高等部道徳科学習指導案 『一人でいる生徒』

**１　主題名**　公平に接する　C-(１１）　公正　公平　社会正義

**2　ねらいと教材**

（1）ねらい

・公平に接する

・親しさの有無に関わらず、集団を構成する仲間に目を向けようとすることができる。

・公平な視点で人と関わることが、よりよい集団づくりになることに気付くことができる。

（2）教材　　一人でいる生徒　（P５６-５９）

**３ 主題設定の理由**

本主題は、以下の中学校新学習指導要領「特別の教科 道徳」（平成２９年３月告示）の内容項目のねらいを受け、個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じるとともに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めるために、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化した。

|  |
| --- |
| C　主として集団や社会との関わりに関すること　（１１）　公正　公平　社会正義正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。 |

1. ねらいとする道徳的価値について【価値観】

集団を構成するものには、家族や友人といった親しい関係性から成り立つもののほかに、学校生活や職業生活等の不特定多数の人から形成されるコミュニティーもある。後者は価値観も様々な人から成り立つため、人間関係を築くことに難しさを感じたり、集団に馴染むことができず孤立する人が出たりすることも否めない。そこで、日頃から集団の全体像を俯瞰して見ることができ、一人ぼっちになる仲間がいないよう気を配ったり、チームで成し遂げるにはどのような働きかけが自分にはできるか公正な視点で考えて行動したりすることのできる態度を育てていきたい。

（２）生徒の実態について【生徒観】

自分たちの生活を振り返り、考えや体験談を意見交換できる生徒を対象とすることが望ましい。読み物教材の読解が苦手な生徒については、教材を範読後、ストーリーの整理を板書で行うことで配慮していく。

日常の学校生活においては、学級活動や休み時間等で仲間の気持ちや行動に着目し、自分と同じように他者も楽しんで学校生活を送れるような働きかけができるよう指導していく。

協働的な学習おいては、お互いの気持ちや考えを伝え合ったり、体験活動を多く取り入れたりすることで、他者理解を深められるような機会を設けていく。

集団を構成する仲間を大切にしようとする分け隔てない態度と行動が身に付くよう、余暇活動等を通して地域と関わり集団で活動する機会を得られるよう、授業実践を家庭にも伝え、外部とのつながりの大切さを発信していくようにする。

（３）教材について【教材観】

この話は、直樹さんの視点で授業を進める。まず、一人でいることの多い啓一さんがどのような人柄であるかを考え、理解を深めていく。次に周囲の仲間の反応（好きで一人でいるからいいと捉える誠さん、困っているときにも話しかけない他の仲間たち、この雰囲気をおかしいと思っている直樹さんと武志さん）を整理する。また、直樹さんにアプローチをした直樹さんと武志さんの行動の後の直樹さんの反応を振り返ることで、善し悪しは別として、気持ちや考えを行動に移したことを良しとできる考え方を築けるようにしたい。これらの学習を通して、親しい関係性を超えた広い視点で仲間や集団を捉え、皆が気持ちよく過ごせる集団生活を築いていこうという態度を育む教材となっている。

**４　学習指導計画**

（1）全体計画 １時間（本時）

（2）準備　　　場面絵

（3）指導過程

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 時間 | 学習活動（主な発問） | 予想される生徒の発言 | 指導上の留意点☆評価の観点 |
| 導入 |  | １　「一人でいる生徒」という言葉について考える。〇「一人でいる生徒」という言葉を聞いて、どのようなことをイメージしますか。○「一人でいる生徒」は実際、どのようなことを思っているのだろう。 | ・一人が好き・集団になじめない・寂しい、悲しい　等・寂しい・一人を楽しんでいる・本人にきいてみないと分からない | ・本時のタイトルを黒板に板書する。・生徒たちの考えを板書していく。・この発問を通して、一人でいる生徒に着目しようとする意識を育む。・「一人が好き」とか「寂しい」とかどちらも自分たちの想像であって、当事者がどのように感じているかは、本人とやりとりしないとわからないことに気付けるようにし、本時は教材をもとに「一人でいる生徒」について共通理解を図る。 |
| 展開 |  | 2　教材　「一人でいる生徒」を読み、話し合う。・教材を読む。・ストーリーを整理する。○あなたは、一人でいることが多い啓一さんについてどう思いましたか。・個人の考えをテキストに書く（P58）・全体で共有する。〇直樹さんは、この後どうしましたか。〇直樹さんと武志さんは、どうしましたか。〇誘われた啓一さんの様子はどうでしたか。〇直樹さんと武志さんの行動で、クラスはどのように変わると思いますか。また、それはなぜですか。・個人の考えをテキストに書く（P58）・全体で共有する。〇集団生活をするときに大切なことは何だろう。・全体で考えていく。 | 課題　一人でいる啓一さんについて、考えよう・気になる：グループ活動や困っているときも一人でいるのは心配。・気にならない：イラストをみると一人の時間を楽しんでいるように見えるから。課題　直樹さん（と武志さん）の考えと行動について考えよう。・武志さんに相談する・啓一さんを誘う・少し照れくさそうにうなずいた課題　集団生活をするときに大切なことについて考えてみよう。・啓一さんに話しかける人が増える・変わらない・分からない | ・教師が範読する。・黒板に場面絵を貼り、登場人物とストーリーを整理する。・生徒たちの考えと理由を黒板に板書していく。・「気になる」も「気にならない」も自分たちの想像と判断でしかなく、本当のところは本人にしかわからないという理解を共有する。☆一人でいる啓一さんについて、どう思うか自分なりの考えをもつことができたか。（思・判・表）・「一人でいるけど、いいのかな。」と心配するだけでなく、行動に移したいことに着目する。・しかも、実は２回目の行動であることにも触れる（１回目は誠さんに伝えている。）・「グループ学習」のタイミングで誘ったことを確認する。・この後、少しずつ仲良くなっていったことを確認する。☆仲間に働きかける大切さに気付くことができたか。（知・技）・どうしてそう思うのか、理由も添えることをあらかじめ確認する。・困っていた仲間をそのままにしていた（気付かないでいた）自分たちの態度や行動に気付いたから等の理由がでてきたら着目をする。・生徒からでた考えを黒板に板書する。☆集団生活をするときに大切なことについて粘り強く進んで考えようとしていたか。（態度） |
| 終末 |  | ３　これからの学校生活につなげる。・P５９の「広げよう」を見て、自分の行動を振り返り、これからにつなげる。 |  | ・P59の投げかけの反対の行動を生徒たちと考え、その行為が集団生活において大切なことであると気付けるようにする。 |

（4）終末での教師の説話例

集団生活をする中で、一人ぼっちを作らない（置いてきぼりをつくらない）、差別をつくらない、誰とでも公平に接するという気付きにつなげられるような、教師の体験を話す。啓一さんの立場に近い体験談から、寂しさや困り感、嬉しかったことなどを話せると、自分以外の人の気持ちを考える機会となる。また、直樹さんのような心配りと行動で、集団の雰囲気が変わった体験を話し、生徒達が自分たちにもできるかもしれない、やってみようという気持ちになれるような勇気付けをしていく。

**○板書計画**

誠さん

啓一さん

場面絵

誘う　★行動**★**

武志さん

直樹さん

武志さん

直樹さん

気になる

理由）

気にならない

理由）

　一人でいる生徒

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

 　　何を

 した？

　　・

　　・

図書館　グループごとの調べ学習

【Ｑ】集団生活をするときに大切なことは何だろう？

一人でいるけど、

いいのかな…

相談　　★行動★

あなた

直樹さん

啓一さん

グループ活動

困っているとき

話かけることなし

うん、ありがとう

（少し照れ）

他の人たち

いいんだよ。

好きで一人でいるんだから。

いいのかな…

少しずつ仲良くなる